

# 滋賀森林インストラクター会

会報・第18号 2016年6月30日



ヤマボウシの花が満開（宝塚西谷の森公園にて 2016.6.04）

## 目次

1. 緑の少年団 個別指導研修会	下川 茂	2~3 頁
2. 平成27年度緑の少年団活動交流会	佐々木 建雄	4~5 頁
3. 霊仙山の現状について	満井 千鶴人	5~6 頁
4. 明治神宮の森を訪ねて	中川 仁男	7~9 頁
5. 2015 県外研修報告 三重県速水林業、瀧原宮	佐々木 建雄	10~15 頁
	小西 民人	
6. 平成28年度総会および事業計画	事務局	16 頁

## ～緑の少年団 個別指導研修会～

下川 茂

### 活動事例＜甲賀市立朝宮小学校「信楽緑の少年団」＞

平成28年2月9日（火）滋賀県の南東部、京都府・三重県に隣接する標高300～500mの山地の中にある甲賀市立朝宮小学校（全校児童31名の小規模校）で「ネイチャークラフトづくり」を実施しました。学校のある丘陵地には古くより茶畑が開かれて、全国五大銘茶産地＜朝宮茶＞として全国的にも有名です。朝宮小学校でも学校所有の立派な茶畑を持ち、実際にお茶の栽培を通して地域を（地域で）学ぶ学習活動に取り組んでおられると聞きました。

この朝宮小学校緑の少年団から、滋賀森林インストラクター会が指導依頼＜ネイチャー（木工）クラフト：モックン・フェイス等の製作＞を受けて、佐々木・小西・高橋・下川の4名が指導に当たりました。



全校児童31名の子どもたちとの出会いにあたり、まず持参した資料＜滋賀県内に生息する野生動物の顔の特徴・名前＞をもとにアイスブレーキングと活動の動機づけを行いました。会場が和んだところで、道具の安全な取り扱い方について事前に注意事項を説明しました。

子どもたちは1年から6年生までが縦割りです。3つの班を構成し、高学年の児童が中心となり、下学年の子どもたちに製作全般の支援を行う姿勢は見えて大変好ましく、微笑ましく感じました。終始このような和やかな雰囲気の中で製作は始まりましたが、当初は自分の作りたい作品のイメージが浮かばず取りかかりに時間を要した子どもたちも次第に各自のオリジナリティを發揮して、独創的で楽しい作品を次々と生み出しました。



今回は、製作時間が説明・後始末を含めて2時間と十分な時間が確保されており、一人で複数個作り上げる子どもたちも数多く見られました。この中には、これまでに見たこともないような力作もいくつか生み出され、改めて子どもたちの無限の創造力のすごさに驚かされました。

活動の最後として、全員の子もたちが自分自身の作品を紹介する時間を設け、児童相互が作品を鑑賞し合い、良さを認め合う場＜相互評価＞を設けました。仲間から認められ嬉しそうにはにかむ大人しそうな男の子の顔がとても印象的でした。

今回の成果ならびに今後の課題として、(1)指導者が4名体制で臨めたことにより、子どもたちの要望や思いを聞き活動をきちんとアシスト出来たのではないかと思います。学校側も学校長を始めすべての先生方が子どもたちと一緒に製作活動に取り組み、低学年の児童に対しては予め「ホットボンド」の使い方を事前指導するなど大変協力的で助かりました。当初は発達段階が

異なる1年～6年生の児童が一堂に会してクラフト製作が可能かと危惧しましたが、全くの杞憂に終わりました。

(2)子どもたちの意欲的な活動を支援・保証するためには、多様な種類の材料や「パーツ」を十分確保・充足するとともに使用する道具類をきちんと揃えることが必要不可欠であると痛感しました。また活動に先立ち、道具の安全で正しい使い方について事前指導をしっかりと行い、理解させることが重要だと再認識した次第です。

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～事務局より～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

平成26年度から始まりました滋賀県緑化推進会の委託事業も2年目を迎えました。本年度も夏の「指導者研修会」に続き、昨年10月から同28年3月の約5か月間に全9回の「個別指導」を実施しました。

「指導者研修会」が県内各地で活動する緑の少年団の指導者全員を対象として行われるのに対して、「個別指導」では我々森林インストラクターが直接会場まで出向いて各々の少年団を指導するものです。今年度も滋賀県緑化推進会が個別指導の希望を募り、全9少年団の指導依頼を滋賀会が受託しました。指導内容は、(1)森林観察／校内の樹木観察／樹木調べと樹名板付け、(2)ネイチャー(木工)クラフトづくりが主な活動で、(1)又は(2)の何れかの内容か若しくは両方とも実施の場合があります。

27年度の計9回の個別指導会には以下の滋賀会会員が講師と参加しました。

#### 緑の少年団 個別指導実施一覧

開催日	少年団名	滋賀会講師
平成27年		
10月24日(土)	多賀町：グリーンキャップ多賀	高橋優
11月22日(日)	近江八幡市：近江八幡市 緑の少年団	平田明
11月26日(木)	米原市：山東小学校 緑の少年団	小西民人、下川茂
12月7日(月)	栗東市：金勝小学校 緑の少年団	佐々木建雄
12月20日(日)	高島市：安曇川 緑の少年団	梶谷栄治、高橋優
平成28年		
1月14日(木)	安土町：安土町緑の少年団 老蘇分団	佐々木建雄、高橋優 小西民人、下川茂
1月25日(月)	草津市：南笠東小学校 緑の少年団	小西民人、佐々木建雄
2月09日(火)	甲賀市：信楽緑の少年団	佐々木建雄、下川茂 下川茂、高橋優
3月20日(日)	高島市：新旭フラワーパトロール	梶谷栄治、佐々木建雄

## 平成27年度緑の少年団活動交流会

佐々木 建雄

2016年2月20日(土)、守山市のみさき自然公園において、緑の少年団の年間活動を締める行事・平成27年度緑の少年団活動交流会の指導を、今年度も滋賀県緑化推進会から受託し、滋賀会から6名(梶谷、小西、佐々木、下川、高橋、橋木)が参加して対応しました。少年団からは4団61名、スタッフとして緑化推進会から3名、滋賀県から3名、総勢73名のイベントとなりました。

当日はまとまった雨となり、午前中の自然観察会は、やれるところまでやってみようということで、傘をさしての観察会となりました。普通の観察会では子どもも飽きてくるかも知れない、との思いから、今年度は「はっけんビンゴ」と名づけたビンゴを作成し対応しました。

しかし、観察会のなかばで雨脚が強まり、やむなく引き上げることになりましたが、「おもしろかった」という声が子どもたちから聞こえ、救われた思いです。余った時間は、各班で森や自然に関する話で埋めました。



さて、昼食は滋賀会特製の豚汁が振舞われます。

今年度は特に、奈良県生駒在住の橋木さんが遠路参加して下さり、豚汁の担当として主婦の経験を十二分に発揮、上々の出来上がりにお代わり続出の盛況でした。

午後は、各少年団の活動発表があった後、滋賀会の指導でクラブ

ト作りを楽しみました。

まず、押し葉のパウチ作り。滋賀会の取り組みとしては久しぶりであったので、製作の流れの中で停滞する工程ができ、待ち時間を作ってしまったのが反省事項としてあります。

クラブの二つ目は、木の枝を使ったモックン作り。素材の木の枝は、あえて長いままにしておき、子どもにどの部位を使うのか、どこを切るのかを考えてもらい、子どもの主体性と感性を重



視しました。

完成後の振り返りに、数名の子どもに作品の紹介と感想を言ってもらい、クラフト作りを終了。

今年度は6名という少ないメンバーで何とか対応したものの、もう2～3名は欲しいところです。



## 霊仙山の現状について

### ～滋賀会会員「研究・活動発表会」より①～

**満井 千鶴人**

4月29日に開催した滋賀会総会の第2部として「滋賀会研究・活動発表会」が設けられていました。興味深い報告ばかりで欠席された会員の方へもお伝えしたくて、発表内容を記事にまとめていただき掲載することにしました。  
(編集部)

霊仙山は、米原市と多賀町境にある標高1094mの山で、鈴鹿山系の最北部に位置します。京阪神や東海地方からも多くの方が訪れる人気の山です。

昨年、私が霊仙山に登りましたところ、かつての霊仙山とは姿を変えていましたのでその現状を報告いたします。



写真① 霊仙山6～7合目



写真② イワヒメワラビ群落

写真①は、霊仙山の6～7合目付近の様子です。まるで箱庭のような風景ですが、植生をよくみると一面がイワヒメワラビで被われています。(写真②)



写真③ かつての霊仙山山系の姿 (2003年5月)



写真④ ニホンジカの群れ

かつては一面をササに被われていました。(写真③) 私がちょうど登山した時に、ニホンジカの群れを見ることができました。(写真④) ニホンジカがササを食い尽くし、ニホンジカの不嗜好性のイワヒメワラビが繁茂しています。



写真⑤ お虎ヶ池の様子 (2003年5月)



写真⑥ お虎ヶ池の様子 (2015年7月)

写真⑤と⑥は、登山道に隣接したところにある「お虎ヶ池」の経年変化です。植生の変化がよくわかると思います。

県や市町は、増えすぎたニホンジカの頭数調整に取り組んでいますが、生態系のバランスを考えて、今後も継続して取り組みが必要があると思います。

# 明治神宮の森を訪ねて～滋賀につながる展開へ～

## ～滋賀会会員「研究・活動発表会」より②～

中川 仁男

### 明治神宮の森とは

昨年の秋に一度は行ってみたいと思っていた明治神宮の森を訪ねました。明治神宮は皆さんよくご存じだと思いますが、今回は明治神宮を取り巻く広大な森の話題です。NHK スペシャルやニュースの最初のバックの映像に映されている森です。実はこの森は壮大な構想のもとに約 100 年前に作られた人工の森であることをあまり認識されないほど現在は鬱蒼とした天然の森になっています。



明治神宮の森 (NHKドキュメント 明治神宮 不思議の森HPより)

### 時間軸で森づくりを捉える

森づくりを考える場合、数十年後の林相がどうなるのかを植物の遷移や生態的な可否をイメージして植林計画が作られるべきですが、様々なその時代背景や条件により、なかなか時間軸で理想的な森づくりを考えることができないことが多い中、神宮の森づくりは大いに学ばなければならない事例であると思っております。

### 喧噪の世界と静寂の世界

山手線のJR原宿駅の賑わいから、明治神宮の鳥居をくぐる南参道の横に脇道があります。そこへ入ると、道はきれいに掃き清められていますが、森の植物は自然そのものです。奥へ入れば入るほど都会の騒音がかき消されていき、100mも入ると、ここが大都会東京なのかと思ってしまうほど

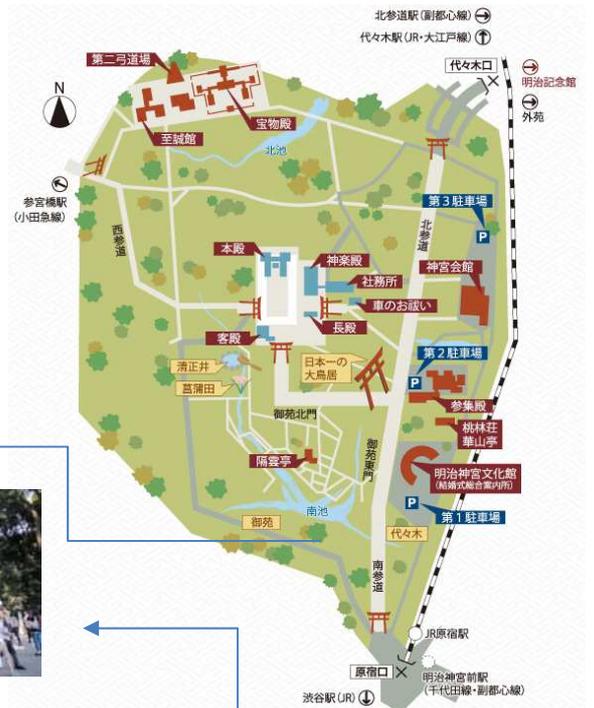


脇道からの森の様子

でした。



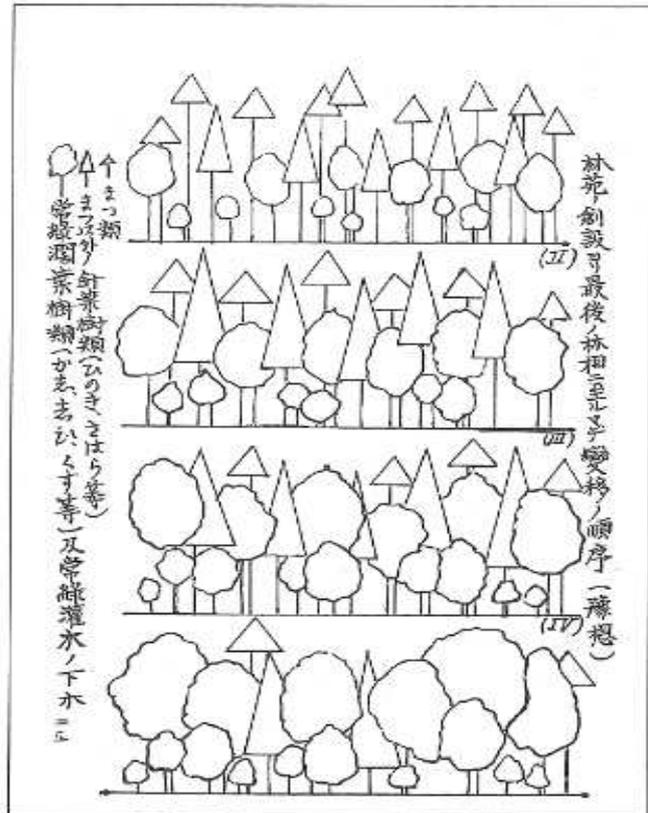
南参道の鳥居



### 段階的な森の姿をイメージ

もともとあったアカマツを活かし、全国からの献木などで主木を構成し、その下にスギなど成長の早い針葉樹を植え（第1段階）、やがてこれらが成長しマツなどの陽樹は枯れていき（第2段階…約50年後）、カシやシイ、クスノキなどの常緑広葉樹が林相の中心を占めつつあり（第3段階…約100年後）、最後にこれらの常緑樹が主木となり第2世代も育ってくる（第4段階…約150年後）という構図です。

第1段階の造成は1920年に完了して、現在約100年経過し、林相はすでに第4段階に入っていることを散策しながら実感しました。



段階的に林相の経過を示した林苑計画  
(明治神宮境内林苑計画より)

### 滋賀とのかかわりその1

さて、100年の森に思いを巡らしていると、脇道から御社殿に到着した。

多くの参拝客特にアジア系の外国人も多く見受けられたが、私の今回の目的は100年の森を実感することなので、目的達成した満足感に浸りながら帰りは南参道を原宿方向に歩いていくと御苑の看板が目につき、訪ねてみるとなんとそこは彦根藩井伊家の下屋敷といわれる土地だったのである。もちろん明治に入って皇室の御料地となったのだが、滋賀とのかかわりがあることを知りました。

### 滋賀とのかかわりその2

さらに参道を下がってくると全国から献上された日本酒の菰樽が数多く並べられていました。滋賀の銘柄を探すと、ありました。藤居本家（愛荘町長野）の「旭日」です。なんとここで「旭日」にお目にかかれるとは思っていませんでした。

藤居本家は以前から何度も訪れていて、酒蔵や店舗が総ケヤキ造りの立派な構えの酒蔵です。酒の愛好家だけでなく、建築関係者もこの酒蔵を訪れるそうです。ここはまるで寺院の本堂で見られるようなケヤキの丸木柱が使われていて、初めて見るものを圧倒させる。





藤居本家店舗



店舗1階



2階大広間

### さいごに

明治神宮の森を訪れて初めて分かった滋賀とのつながりから意外な展開となった本稿だが、インストラクターとして森づくりには長い年月がかかることの視点と、その年月育てられた樹木を木材として活用する活かし方にも関心を持ちたいものです。ちなみに、この酒蔵は170年続く老舗の造り酒屋で、現在の酒蔵建設にあたっては先代の女当主の酒蔵にかけ強い思いがあったとのことでもあります。

滋賀にも、それぞれの酒蔵に様々な取り組みや歴史などの素晴らしい物語があり、これについて論じることは別の機会に譲るとして、現在、私は日本の文化の象徴として日本酒を造る滋賀県の酒蔵に森と木の文化を求めて酒蔵巡りを楽しんでいます。



藤居本家酒蔵

(事務局より)

中川さんの「明治神宮の森を訪ねて～滋賀につながる展開～」は、4月29日の活動発表会で発表していただく予定でしたが、事務局の進行不手際のため時間不足となり発表中止になってしまいました。内容を会員の皆様には是非とも知っていただきたく、会報への掲載をお願いし本稿を作成していただきました。

# 2015 県外研修報告

## ～三重県 速水林業、伊勢神宮別宮 瀧原宮～

佐々木 建雄／小西 民人

平成27年度の県外研修を12月12日(土)～13日(日)に実施しました。参加者は計10名、京都海からも2名参加していただきました。研修地は三重県紀北町の速水林業と大紀町にある伊勢神宮内宮の別宮瀧原宮。科学的効率的な林業経営を実施している速水林業と日本の古代木造建築と神道の文化に触れることができる瀧原宮です。佐々木さんに報告書を作成していただきました。また、小西さんには観察できた植物をまとめていただきました。

### 【速水林業見学】

現場見学の前の講義の講師は速水林業代表速水亨氏。日本林業経営者協会会長、三重県森林審議会委員など公職多数、著書も「日本林業を立て直す」など多数。その多忙さは推して知るべしですが、我々の研修のため、長時間熱心につき合ってくださいました。

講義の初っ端、まず質問されたのは「路網密度」という言葉。路網密度とは、1ha当たりの林道、作業道の長さのことで、日本の平均は17m。ところが、速水林業の路網密度は



45mもあり、林業界でいち早く一気に機械化を進めることができたのは、この様に路網の整備を他に先がけて地道にやってきた結果とのことでした。

この様に始まった講義の内容は、話が進むにつれ、我々が知っているつもりであった林業知識は、何と狭く浅いものであったか、思い知らされることとなるのです。

その一つを紹介します。それは、持ち山の実態を徹底して数値化しデータ化することで、見えてくるものがあり、従来のように、ベテランの経験則や経験値だけに頼ってはいは、絶対に新しいステップには踏み出せないということ。

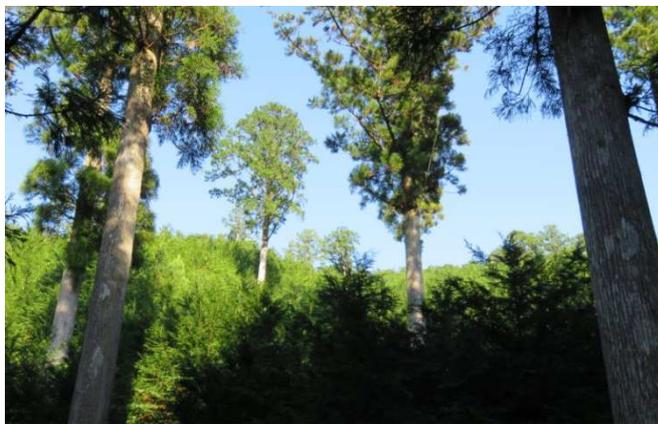
例えば、速水林業における1ha当たりの労働投入量を20年前、10年前、現在と比較してみると、20年前が413人であったのに対し、10年前が117人、現在は95人と、20年前と比較すると現在はほぼ75%もの削減率になっていること。そして、このデータを検証すると、施業で一番コストがかかっていたのが下刈りでした。このことから、下刈りを必要最小限に縮小、場合によっては、下刈りなしという対処の仕方で大きな問題はなく、大幅なコスト削減ができたということでした。

その他、目から鱗の事例がたくさんありましたが、紙面の関係で割愛し、森の現場を写真で紹介しま



まず驚いたのは、下草が多いこと。  
これはイズセンリョウ。林床をびっしり埋めていました。  
現場は、三重県でも南部に立地しているせいか、  
南方系と見られる植物が多い。

また、興味深い事例では……、イチイガシの試験栽培地。きちんと枝打ちをしてやると、広葉樹でも真っ直ぐ育つのだそうです。



人工林ではあまり見かけない風景。樹齢百年に近いヒノキの下では、若齢のヒノキが育っています。



明るい林内。下草や低木が自由奔放に育っています。この看板には、森の現況が記してあります。



速水林業では、国際的な機関である FSC の認証を日本国内で初めて取得しました。

FSC の森林認証は「環境保全の点から見て適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも持続可能な森林管理」を推進することを目的としており、認証された森林から出された木材、木材製品にロゴマークを付けて流通させるものです。このマークがついていたら、その証。



貯木場で出荷を待つ丸太。径が揃っています。かつ、年輪はほぼ同心円を描いている。



こちらは、カキの養殖用イカダに使う細い丸太。養殖業者の評判が良くて、割と良い値で売れるとのこと。



育成中の苗木。苗木はビニールポットで育て、植栽時にポットを破りそのまま穴に入れるだけ。直根は切らない。



苗木の栽培は従業員が速水林業の土地を借りて育てていて、植林の際、速水林業に販売している。

以上が、速水林業研修の概要ですが、現地を見れば、「目から鱗」の事例がいっぱいです。百聞は一見に如かず。是非、現地にて実感されることをお勧めします。

また、ここでは、三浦しおん原作の林業小説・「神去村なあなあ日常」の映画ロケも行われました。

## 【皇大神宮(伊勢神宮内宮)別宮 瀧原宮】

研修第二日目は、皇大神宮（伊勢神宮内宮）の別宮・瀧原宮（たきはらのみや）と瀧原竝宮（たきはらならびのみや）を訪問。



参道入り口に立つと（左）、鳥居越しに杉の大木を中心に鬱蒼とした自然林が茂り、神域独特の気を感じます。右は平成26年に式年遷宮が行われた瀧原宮。この左側に、同じ大きさ、同じ造りの瀧原竝宮があります。



造りはシンプルな神明造。高床式の穀倉から宮殿へと発展した独自の建築様式だそうです。

- \* 柱は丸柱の掘立式で、地中に埋め建てられている。
- \* 屋根は切妻で茅葺き。
- \* 屋根の両妻にある破風が延びて、屋根を貫き、千木となっている。
- \* 棟の上に鯉木が置き並べてある。
- \* 棟の両端を直接支えている棟持柱がある。
- \* すべて直線式で、必要な覆金物や飾金物の他は、装飾や色彩はなく素木造である。

右の写真に目を移すと、真ん中の太い柱が棟持柱。その後方に見える2本の柱の上部に、少し隙間があるのにご注目。これは決して施工ミスではなく、掘立式の棟持柱が、経年変化の腐食などで下がった場合、重い屋根を受け止める備えとしてのもの。この隙間が無くなる頃が、次の遷宮となるはず。

あまり知られていませんが、伊勢神宮は皇大神宮（内宮）、豊受大神宮（外宮）という御正宮2社をはじめ、14の別宮と43の摂社、24の末社、42の所管社から成る125社の総称です。瀧原宮は、別宮のなかでも皇大神宮に次ぐ高い格式を有する御社なのですが、世間にあまり知られていな

いこともあってか、実際にお参りしてみると、人も非常に少なく、深い森の静けさのなかで凜とした空気を味わうことができました。

(以上 佐々木建雄)

**【県外研修植物部門報告】**

研修地は三重県の南部にあたり、年間降水量も多く、暖流の黒潮も近くを流れ、比較的暖かい地方ですので、植物にとっては大変良好な生育地といえます。特に、暖温帯に多い常緑の広葉樹（照葉樹）にとっては格好の生育適地。滋賀県でほとんど見られない常緑の樹種がいくつか観察できました。植栽されたものも含めて、以下、写真で紹介します。



**速水林業地「太田賀山林」内**



イズセンリョウ

サクラソウ科イズセンリョウ属  
関東南部～沖縄（暖温帯）



ハスノハカズラと果実

ツヅラフジ科ハスノハカズラ属  
関東南部～沖縄（暖温帯・亜熱帯）



テンダイウヤク

（クスノキ科クロモジ属）  
中国原産、日本の暖地に野生化



ホウロクイチゴ

（バラ科キイチゴ属）  
関東南～沖縄暖温・亜熱



オオバノハチジョウシダ

常緑性のシダ  
関東以南の照葉樹林内

伊勢神宮別宮瀧原宮、外宮せんぐう館周辺



ルリミノキ

アカネ科ルリミノキ属  
東海～沖縄（暖温帯・亜熱帯）



コバンモチ

ホルトノキ科ホルトノキ属  
紀伊半島～沖縄（暖温帯・亜熱帯）



ミミズバイ

ハイノキ科ハイノキ属  
東海～沖縄（暖温帯・亜熱帯）



トベラ

トベラ科トベラ属  
東北南部以南の海岸、暖温帯



ゴモジュ

リンドウ科ガマズミ属  
亜熱帯、南方に植栽

以上の他に、ヒノキ植林を中心とした太田賀山林内では、カンザブロウノキ、シロバイ、マンリョウ、タイミンタチバナ、サネカズラ、タブノキ、ツブラジイ、ヒサカキ、センリョウ、イチイガシ、ヨレスギなどの多くの常緑樹が見られた。写真のイズセンリョウやハスノハカズラは下層植生として一面に生え、よく緑の砂漠ともいわれるヒノキ植林とは一線を画す。下草刈りをほとんどしない、多様性を目指す森林施業の成せる技と驚かされた。一方、よく叫ばれるドングリの木の植栽は良いものと鵜呑みにしていたが、コナラなどにはアレロパシーがあり、その樹下には下草が育たない。放置すれば植生を貧弱にするばかりで、里山での計画的な（多様性を生み出すための長期的なビジョンに立った管理計画に沿った）人の手入れの必要性を強く感じた。まさに目から鱗！！

伊勢神宮関連の森では、寄進木が多く見られ、本当の自生地ではないものの、よく育っているところからこの地が暖温帯に属している証しともいえる。写真の木のお多くは寄進されたものと思う。

せんぐう館では、式典に使われた道具が展示され、それらは古来の伝統的な技法によって、自然のものを実に上手く使って作られていた。例えば、弓（梓弓）はアズサ（ミズメ、ヨグソミネバリ）の枝を使って作るのだが、乾燥してしまうと折れやすいので、湿った状態で削り出すとか、太刀の柄（つか）の部分は硬いアカギで作る、さやの部分は柔らかくて作りやすく刃を傷めないところからホオノキで作る。などなど、いにしえ人が生活を豊かにするため、いかに自然とうまくつきあい、共に生きてか、そのことに思いを巡らせることのできた研修であった。謝謝。（小西民人）

## ～平成28年度総会開催報告～

### 滋賀森林インストラクター会事務局

4月29日(祝)、平成28年度滋賀森林インストラクター会の総会が開催され、平成27年度の活動報告と決算、平成28年度の事業計画と予算案が承認されました。

本年度の事業計画は昨年度の各事業への参加者現象を反映して、事業数を削減していますが、昨年に引き続き「緑の少年団サポート事業」の講師派遣や県外研修を含めた研修会を実施します。会員の皆様のご協力をお願いします。

#### 事業

日時	場所	事業内容等
H28.4.23(土)	希望ヶ丘「青年の城」周辺(竜王町)	<b>野草観察会</b> (希望ヶ丘公園主催) ガイド(解説者)として参加
H28.5月 ～H29.3月 ?	県内の4地区 未定	契約締結(6月) <b>緑少指導者研修会</b> (滋賀緑化推進会主催 上期) <b>緑少個別指導研修会</b> (各少年団主催 下期) 各地区の緑少日常活動サポート
H28.10月上旬	未定	<b>森づくり交流会</b> (滋賀県主催事業) ・テーマ、展示内容未定
H29.2月中旬	未定	<b>緑の少年団交流会</b> (緑の少年団滋賀県連盟、滋賀県緑化推進会主催) ・樹木観察、木工クラフト指導等

#### 研修会

日時	場所	事業内容等
H28.4.17(日) H28.6.05(日) H28.9.11(日) H28.10.16(日)	県内各所(計画中)	・ <b>滋賀会定例研修会</b> (奇数月第1日曜日開催)
未定		・ <b>林業体験研修会</b> 京都府の間伐活動に参加を検討
H28.7.16(土) ～17(日)	樽池高原(長野県)	<b>県外研修会</b>

### **編集後記**

会報第 18 号（2015 年度下半期号）をお届けします。梅雨に入り鬱陶しい日が続いています。会員の皆様、蒸し暑さに負けずご自愛下さい。

今号では、総会後に開催した「滋賀会研究・活動発表会」で発表された報告を記事にいただきました。また、三重県で実施した県外研修会の報告書を抜粋し掲載しました。皆さんに充実した記事を書いていただき、いつもよりページ数が多い会報となりました。

（高橋）